

## バイオマス資源の持続可能性に関する委員会 企画案

バイオマス産業社会ネットワーク  
地球・人間環境フォーラム  
FoE Japan

### 1. 趣旨

バイオマス燃料の利用は、温室効果ガス削減の有力な手段として国際的に大きな注目を浴びている。一方で、サトウキビ、トウモロコシ、アブラヤシ（オイルパーム）などの作物のバイオ燃料利用の促進による下記のような問題点も指摘されている。主な項目としては、食糧需要との競合、土地利用に与える影響、自然植生からの農地転換に伴う温室効果ガスの排出、森林生態系・生物多様性に与える影響、水需要の拡大および水需給の逼迫、土壌への影響が挙げられる。

このような問題への認識が高まったことを背景に、国際的にバイオ燃料の持続可能性指標を開発するなどの取組が進められている。

日本国内では、経済産業省、農林水産省において委員会や研究会が設置され、バイオ燃料利用における持続可能性をめぐる議論は一定の成果を上げてきた。しかし、市民団体や途上国における農林業の知見を持つ学識経験者の参加は限定的であった。

本委員会は、上記のような背景を念頭に、バイオ燃料を中心としたバイオマス資源の持続可能な輸入・利用のあり方につき、市民・学識経験者の間で、幅広く議論を行い、情報の共有を図ること、また、可能な範囲で共通認識を構築し、その成果を活用した政策提言を行うことを目的として設置する。

### 2. 目的

下記を目的とする。

- 1) 輸入バイオマス資源の持続可能性に関する情報・論点の整理
- 2) 日本としてのバイオマス資源利用の在り方および輸入バイオマスの持続可能性に関する検討、日本政府向け提言の作成

### 3. 開催期間および頻度

2009年7月下旬 準備会合

2009年9月～2010年3月 2回程度開催 1回3時間程度

### 4. 討議内容（案）

準備会合

- ・委員会の目的及び趣旨の確認。議論の範囲の確認。議論の進め方に関する討議

第1回：情報の共有

- ・農水省における取り組み
- ・経済産業省における取り組み

- ・ バイオ燃料の輸入の状況（ゲストとして企業を招聘）
- ・ バイオ燃料の持続可能性に関する最近の動向
- ・ ヨーロッパ調査のポイントについて

第2回：情報の共有および議論

- ・ 日本におけるバイオマス資源利用の状況、輸入状況の概要
- ・ 輸入バイオマス資源の持続可能性確認に関する論点整理
- ・ 輸入バイオマス資源の持続可能性確認に関する提言（合意できれば）

5. 委員構成

下記の NGO/NPO、学識経験者など 11 名（企業・行政関係者からはオブザーバー及びゲスト・スピーカーという形で参加頂く。本人に支障がなければ委員として参加も可）

（敬称略・五十音順）

氏名	所属	専門分野
飯田 哲也	環境エネルギー政策研究所所長	自然エネルギー政策
井上 真	東京大学教授	森林ガバナンスおよび社会学
井上 雅文	東京大学准教授	木材加工学、バイオ燃料の国際基準
岡崎 時春	FoE Japan	木材の持続可能な利用
熊崎 実	筑波大学名誉教授	森林政策、木質バイオマス
坂本 有希	地球・人間環境フォーラム	フェアウッド調達
佐久間 智子	アジア太平洋資料センター（PARC）	農業・食糧問題、水問題
泊 みゆき	バイオマス産業社会ネットワーク	バイオマスの持続可能な利用
久野 秀二	京都大学大学院経済学研究科准教授	農業経済
日比 保史	コンサベーション・インターナショナル日本プログラム代表	生物多様性
平田 仁子	気候ネットワーク	気候変動

6. 事務局

事務局は地球・人間環境フォーラム、バイオマス産業社会ネットワーク、FoE Japan の 3 団体で構成するものとする。事務局代表は地球・人間環境フォーラムが担う。

地球・人間環境フォーラム

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-43-16 成田ビル 3F

TEL.03-3813-9735 FAX.03-3813-9737

URL：www.gef.or.jp

以 上